

## 市町村の連絡協議会づくりと活性化

中津市放課後児童クラブ連絡協議会

金子 ゆかり

### 1. 市連協を立ち上げるまで

2015年	市内児童クラブの保護者役員同士で、知り合いの保護者を通じて運営の疑問点などを話し合う。
2016年10月13日	市内の支援員会に保護者として参加。保育や運営の困りを話し合う。
2016年11月27日	大分県放課後児童クラブ研究集会へ支援員から依頼され参加。協議
2017年1月28日	市内法人以外のクラブへ声をかけ、県連協役員と合同学習会及び意見交換会を開催。参加7クラブ、市議会議員1名参加
2017年2月6日	中津市議厚生環境委員会主催の市内児童クラブ意見交換会開催。
2017年2月17日	市内全児童クラブを対象に県連協役員と合同学習会を開催。 参加7クラブ
2017年4月7日	中津市放課後児童クラブ連絡協議会（以下、市連協）準備会発足。 保護者OBが集まり、規約作成開始。※以降、月1～2回準備会を開催。
2017年6月23日	薬剤師会、保健所の協力を得て、放課後児童クラブにおけるアレルギー疾患学習会開催。法人以外のクラブへ案内を配布。参加11クラブ。
2017年9月8日	中津市福祉部子育て支援課 担当課長、担当者2名と県連協役員、準備会メンバーで、10月に予定している「困りの子」に関する合同学習会の打ち合わせ。同時に、市連協発足に向けた案内を予定。 会場は、中津市役所。演題については、当時の担当課長が揮毫。
2017年10月27日	中津市放課後児童クラブ連絡協議会発足にむけての案内及び、「困った！と感じる子どもへの対応について」合同学習会開催。講師は、県連協より依頼。行政担当課からも説明。県連協会長・宇佐市連協会長も同席。 参加者18クラブ74名
2018年1月27日	県連協役員と中津市議会議員1名を招いて、発足に向けた話し合い。キャリアアップ手当に対する講習として、準備会が主催した「アレルギー疾患」と「困りの子」の学習会が大分県と中津市に認められた。
2018年2月3日	行政担当者2名と準備会メンバーで、2月9日開催予定の市連協発足説明会、打ち合わせ。
2018年2月9日	中津市放課後児童クラブ連絡協議会加入説明会開催。 準備会メンバー、中津市議会議員1名、行政担当課長、担当者2名、県連協会長、宇佐市連協会長、市内19クラブ（48名）。 会場は、中津市役所。加入申し込み17クラブ

2018年4月13日	臨時役員会開催。4月11日未明、耶馬溪町で災害が発生。発足式典、第1回総会を7月1日（日）10時からに変更。
2018年7月1日	中津市放課後児童クラブ連絡協議会発足式典、第1回総会を開催。

## 2. 市連協の取り組み

- ① 保護者、支援員、運営関係者が連携し、中津市内のネットワークを作り、放課後児童クラブの拡充の為に必要な活動を行政と共に取り組む。
- ② 関係者の親睦、情報交換・交流をはかり、支援員が受講したい内容の学習会を開催し、市内で開催する事で参加しやすい環境をつくり、資質向上の学びを主体的に取り組めるようにする。
- ③ 学習会においては、支援員の資質向上と保護者や地域にも参加を募ることで、児童クラブの更なる認識と理解、関わりをもってもらえる事ができる。
- ④ 各種規程などの整備をし、不足している児童クラブが参考にできるようにする。
- ⑤ 市連協へ加入している全児童クラブは、市連協が取りまとめて大分県連協へ加入すると規約に定めている。大分県連の主催する研究集会へ会員として参加出来、大分県内や全国の様々な情報を得る事もできる。県連協へ加入する事で、各市町村の協議会と連携し、児童クラブを取り巻く状況を共に改善できる。

## 3. 課題と取り組み

- ① 保護者のクラブ運営に関する理解不足  
→ 保護者を交えた意見交換会開催 →
- ② 支援員不足について  
→ 行政と市連協の意見交換会開催 →
- ③ 困りの子の対応  
→ 行政と市連協と講習会を開催 →
- ④ 処遇改善について  
→ 行政と市連協意見交換会開催予定 →

・社労士を招いた学習会を開催予定  
・他のクラブ状況を知り、情報共有

行政と協力し、支援員養成の講習会を開催検討

・市連協主催の学習会を開催  
・キャリアアップ学習会は行政に開催内容を事前に提示した上で、市連協に一任されている

・今年度より、常勤職員配置の処遇改善加算がついた  
・市内クラブの要望を取りまとめて協議会から陳情する

#### 4. 大分県放課後児童クラブ連絡協議会との連携

大分県放課後児童クラブ連絡協議会に、中津市連協会長と事務局長、副会長の3名が運営委員として、県連協の運営員会に参加しています。大分県連協の主催する学習会や、地域別のブロック別学習会などの情報もいち早く市連協関係者へ伝えることも出来、また市連協での課題についても、大分県連と協力して取り組んで頂けます。「学童ほいく」の保育雑誌も普及に努めています。年間を通じて購読してくれるクラブも出来ました。また、全国連から依頼のあった請願署名活動にも、大分県連を通じて市連協から市内全クラブへ協力を依頼。1300通余りの署名を集める事が出来ました。今後も活動を通じて、大分県連と共に協力していきたいと思えます。

#### 5. 連絡協議会の必要性

中津市放課後児童クラブ連絡協議会は、発足してまだ1年余りですが、児童クラブを超えて役員として運営に携わった保護者が中心となり、各クラブの支援員と協力しながら協議会の必要性の声を広げていきました。

2018年12月には、中津市議会も「放課後児童クラブ職員配置基準の堅持及び放課後児童支援員等の処遇改善を求める意見書」を全会一致で採択し、安倍総理をはじめ関係省庁大臣、衆参議長に提出して下さいました。意見書を提出してくれたのも、協議会の発足前から市議会議員に相談し、話し合う場を作り、放課後児童クラブの状況を伝えてきたからだと思えます。日本全国の子ども達が、どこでも、どこに行っても、安心安全な放課後をすごせる為には、全国各地で協議会という繋がりを作り、いつでも情報交換できる体制を整える必要があると思えます。

心も体も成長していく学童期に、親でも祖父母でもない「信頼できる大人」の存在が子どもの今後の糧となり、どれだけ成長の支えになるかわかりません。その子ども達、関わる保護者に心を寄り添い過ごしてくれる支援員の処遇改善を、預ける保護者が訴え続けなければ、との思いが発端です。

昨今では、お友達のお父さん・お母さんでもついて行ってはダメであると、子どもに伝える家庭も多い世の中で、子ども達が安心して安全に過ごせる場所を守っていく為には、保護者同士もただ預けるだけではなく、繋がりを広げる事が大切だと思えます。あれだけ必死に児童クラブへの預け先確保に走り回っていた保護者も、その時期を過ぎれば、関心も薄れます。行政担当者も数年で変わり、担当者によっては解釈も違う事もあり、「専任がない」「経緯をしらない」ことで、運営にばらつきが出ます。学童保育を取り巻く問題の解決に対して、継続性がない課題を解決するには、協議会という「繋がり発信」出来る場所をつくり、放課後児童クラブの専任組織として変わりゆく仕組みに柔軟に対応していく事ができると考えます。